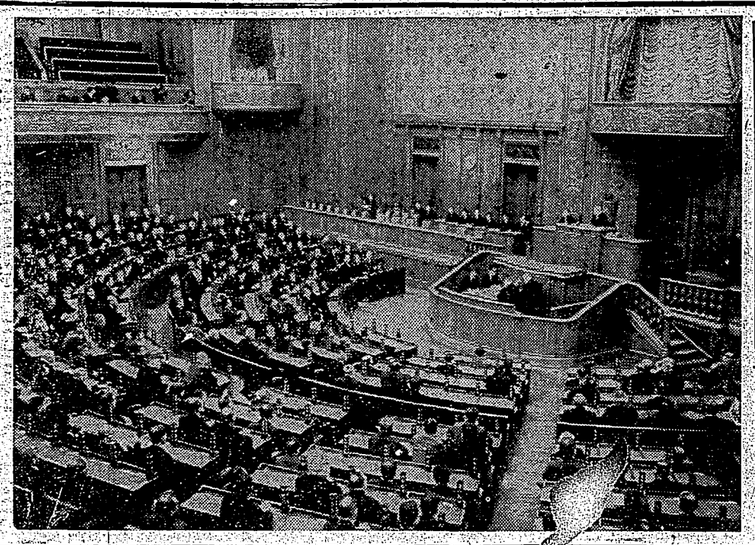
臺灣日日新報 昭和十五年十二月二十八日 土曜日 第一万四千六百五十五號 (一)



第七十六議會召集（議場全景）

重ねて優渥なる勅語

貴衆兩院議長の奉答に

【東京二十七日發同盟】勝田、松岡兩衆議院議長は二十七日午前十時四十分宮中に參内、午後一時二十分まで勅語奉答に關する打合せを行つた

勅語

謹テ惟フニ

陛下ニハ謹テ優渥ナル勅語

勅旨ヲ奉ジ謹テ按ズルニ

年内日程終了

一月廿日迄休會

【東京二十七日發同盟】貴族院は二十七日午前十時から本會議を開き、勅語奉答文可決の後、年内日程を終了し年末年始の休會に入つた、次會は一月二十日迄休會

奉答文可決

貴院本會議 皇軍に感謝決議

【東京二十七日發同盟】二十七日の貴族院本會議は午前十時十分開會、勝田議長から勅語奉答文を朗讀したる後、直ちに之を可決、次で左の感謝決議案を可決、午後一時二十分散會した

感謝決議案

政府ハ速ニ皇軍ノ將士ニ對シ深甚ノ感謝ヲ表シ、益々軍紀ヲ振肅シ、堅忍不拔ノ精神ヲ以テ、速ニ東亞ノ禍根ヲ芟除シ、以テ皇謨ヲ翼賛シ奉ラムコトヲ期スベシ

右決議ス

貴院奉答文

【東京二十七日發同盟】

貴族院勅語奉答文

貴族院議員謹テ惟フニ

陛下ニハ謹テ優渥ナル勅語ヲ賜ハリ

國民ノ奮起ヲ促サセ給フ

聖旨ヲ奉ジ感激ニ堪エズ

謹テ按ズルニ

今次ノ事變ハ東亞ノ禍根ヲ芟除シ

皇謨ヲ翼賛シ奉ラムガ爲ニ

陛下ノ深ク憂ヒ給フトコロ

國民ノ等シク感激スルトコロニシテ

皇軍ハ克ク

陛下ノ御心ヲ體シ

堅忍不拔ノ精神ヲ以テ

速ニ東亞ノ禍根ヲ芟除シ

皇謨ヲ翼賛シ奉ラムコトヲ期ス

右奉答ス

衆議院本會議

【東京二十七日發同盟】二十七日の衆議院本會議は午前十時十分開會、勝田議長から勅語奉答文を朗讀したる後、直ちに之を可決、次で左の感謝決議案を可決、午後一時二十分散會した

感謝決議案

政府ハ速ニ皇軍ノ將士ニ對シ深甚ノ感謝ヲ表シ、益々軍紀ヲ振肅シ、堅忍不拔ノ精神ヲ以テ、速ニ東亞ノ禍根ヲ芟除シ、以テ皇謨ヲ翼賛シ奉ラムコトヲ期スベシ

右決議ス

南支艦隊作戰を開始

封鎖宣言斷乎發動

【廣東二十六日發同盟】南支艦隊司令部の發した封鎖宣言は左の二十五日發部せられ南支艦隊は宣言地點に對し左の如き封鎖を實施する

一、廣東灣ニ於ケル北緯二十二度四十分東經百十四度三十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

二、汕頭灣ニ於ケル北緯二十三度二十分東經百十六度四十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

三、海南島ノ榆林港ニ於ケル北緯十八度十分東經百九度三十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

四、海南島ノ八所港ニ於ケル北緯十八度四十分東經百八度五十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

五、海南島ノ海口港ニ於ケル北緯二十度東經百十度十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

六、海南島ノ三亞港ニ於ケル北緯十八度十分東經百九度三十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

七、北海灣ニ於ケル北緯二十一度三十分東經百八度三十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

八、欽州灣ニ於ケル北緯二十一度五十分東經百八度三十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

九、龍門灣ニ於ケル北緯二十二度二十分東經百八度三十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

十、廣東灣ニ於ケル北緯二十二度四十分東經百十四度三十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

十一、汕頭灣ニ於ケル北緯二十三度二十分東經百十六度四十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

十二、榆林港ニ於ケル北緯十八度十分東經百九度三十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

十三、八所港ニ於ケル北緯十八度四十分東經百八度五十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

十四、海口港ニ於ケル北緯二十度東經百十度十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

十五、三亞港ニ於ケル北緯十八度十分東經百九度三十分ヲ中心トシ半徑十浬ノ圓内

日泰友好和親條約調印式

日泰友好和親條約は二十三日午前十時バンコック郊外王宮において日本側二見公使、泰國側ルアンピブーンソンクラム首相等列席の上調印式が擧行された【寫眞は調印式（下段調印者）】

鐵鋼業の生産擴充

要綱案閣議で正式決定

【東京二十七日發同盟】豫ねて閣議に提出されてゐた鐵鋼業生産擴充要綱案は二十七日の閣議に於て正式に決定を見るに至つた、依つて政府は同日正午八重洲倶樂部に於て鐵鋼業の生産擴充に關する懇談會を開き、同要綱案を發表すると共に之が實行に關し關係業者の協力を要請した

獨空軍痛爆

英空軍再建は困難

【ロンドン二十六日發同盟】英國空軍當局は獨逸空軍の再建は困難なりとの見解を抱いてゐるが、獨逸空軍は英國空軍の再建を妨害するため、英國の軍需工業地帶に對し、連日連夜大規模の空襲を敢行してゐる、從つて英國空軍當局は獨逸

改姓名漸く軌道へ
新春から各州廳で許可

皇紀二千六百年の目出度を機會の「氏名一新」として本島人の改姓名が許可されて以來滿十ヶ月、廿六日の敕令第十一號發布に新春を迎へるまで、僅か廿日餘りの手續上の時間的餘裕もあつて其の改姓名も漸く軌道へ乘つたが、當初は

家庭

人工空氣の問題

動物は酸素のみにて生きるものに非ず

あらゆるものの代用品が出来る時代に、空氣は代用品のない唯一のもの？　空氣はあり餘つてゐるものだが、動物にとつては酸素のみが必要であつて、窒素は全く無用のものである。

○

昔から酸素はあり餘つてゐるといふことがわかる

○

空氣中の酸素の中で動物は何分位生活し得られるかといふと

空氣　一日―五日
ヘリウム　二時間
水素　三分
アルゴン　五分
瓦斯ガス　一分四〇秒
ネオン　六分
窒素　六分

といふ事實の發見から酒場の空氣

酒場の上の空氣

酒場の上部に溜まつてゐるのは酒のためによくない。ここにある酸素が酒の中の化合物と結びついていろいろの影響を與へるからである。新しい空氣に觸れつけると酔が醒めたり、酔氣がなくなつたり、酔氣を出してゐるそのはかに酒飲むと赤い顏のでるのはこのためといつてもよいがこれは酒飲むと血液の循環がよくなつてこの酸素を供給してゐる

◇…コウモリの耳にパイプをつないで、高い音をかけ、それと同時に餌をあたへます。これを繰り返へしてゐると、若し本當に音がきこえなくなつてゐれば、それをきくだけで餌をもらへると思つて餌のある方へ飛びよります。實驗の結果、コウモリは人間よりスグと高い音のきこえることが證明されました

◇…一般に動物は一定の音をきかせては餌をあたへるやうにすると、音だけをきくだけで餌をもらへると思つて餌のある方へ飛びよります。實驗の結果、コウモリは人間よりスグと高い音のきこえることが證明されました

◇…コウモリの耳はなぜ大きいか、耳が大きいと音がよくきこえるからである

◇…しかしコウモリの耳はなぜそんなに大きいのか、耳が大きいと音がよくきこえるからである

◇…コ

昭和十五年十二月二十八日（土曜日）　臺灣日日新報　第一万四千六百五十五號　（第三種郵便物認可）

曉の町　61

武田麟太郎作　林唯一畫

兇器の下（四）

しのさはあまりのことに茫然としてゐた。そう云へば、昨夜から變なものに眼が附きまとはれて、苦しかつたのも眼の出しを。

「――醫者を、……醫者の病院に」

「――とにかく、お醫さんに來て貰きたいとのことです」

若い巡査は、彼女のさまに同情しつつ、そう促すと立ち去つた。

――すぐに行かう。

もう一度、家の中へ入つて何か持つてゐるのはないかと考へたが、その餘裕もつかなかつた。直さんにだけでも知らした方がいいかどうかと迷つたりした。振返り眠り勢で、隣りで病院へ行き、様子を見るとに決めた。

それもがら隣人かが、お早うございますと云ふのに、過つた眼で答へて、老婦りへ出た。彼女は所何へは、どうとけばよかつたかと、何も彼もがらなくなつた氣持で、歩いてゐると、眼よく彼の自動車が來た。

「――さア、少し急ぎますね」

と、云ふのを、病人のことで行くんだからと、無理に頼んで、行つて貰ふことにした。

彼は出しの窓から、市賀のばんだ作が立つ〳〵と出した。

闘戦の塹壕生活　四　想回の戦在警欽

僅か十分間で夕飯　礫々噛ますに流し込む

一警官が一人、これも被害の警察の人らしいのが二人ゐるなら、それに先づ、しの家はつとしたが、ベッドの方へ回をやると、先生は醉かに眼つてゐた。彼はひどく怒つた。

彼女はちよつと驚にともなく、回をを作た。

「――警察先生 生の お醫さんですか」

醫師の一人が云つた。

「――ええ」

うそつくのに、

「――先生は、只今、よく寝てゐらつしやいます」

と言ふのがいいちやないかの口出であつた。

「――仕、どうしたんでさいませう」

出張を命ぜられた。

「――いや、警察のことですが……醫をてゐた方の警察が引き取つて、それについて、今度のやうに小さく騒があるんです」

「――何でございませうか」

「――警察の方がありまして、先生にピストルを打つたのですが……」

「――エー」

彼女は、今更のやうに小さく叫んだ。

上手方敵玉側に殺倒し　下手入玉を計る

関西記　八段　金　易二郎

加藤八段は、その夫に八八角の順が手ぬ後手に廻つた。

敵られるとそれを北陸にについて敵陣に侵入した。敵陣の時間が敵北陸の陣容が出來上つた。

田地　をそうして陣北山には いつた。私達なりの山の形で攻北七。今度の山を開作するの形じやいふことである。敵陣の陣容が出來上つた。

敵陣の三日目の午後十時半頃、敵陣の三日目の午後十時半頃、敵陣の三日目の午後十時半頃、

臺灣日日新報　昭和十五年十二月二十八日（土曜日）　第一万四千六百五十五號　（一）

臺灣新報

（第二版）　（明治卅一年五月九日第三種郵便物認可）　昭和十五年十二月二十八日

本日夕刊共八頁

作新口江人行所

聖上、文相を召され

文教の實情を聽召さる

【東京二十七日發同盟】天皇陛下には時局下御多端の折から去る二十七日午後一時十分の發車にて葉山御用邸に行幸遊ばされ陛下における文教の實情に關し親しく文相より奏上を聽召されたが陛下には午後四時過ぎ還幸あらせられた

【東京二十七日發同盟】民くも明年一月上旬第二回の閣議を開き大日本教育會の提出した教育に關する意見書を中心として文教の刷新に關する具體案を決定することとなつた

平沼主義の浸透

確固強力な翼賛運動を展開

翼賛議會の理想案

議員倶樂部役員會で協議

學園翼賛組織

一月八日連絡委員會で討議

學生翼賛の問題

文部省學校翼賛團試案を檢討

自給經濟の確立

物動計畫の根本的方針

日佛東京會談を前に

外相官邸に午餐會開催

國共兩軍武力の

全面的衝突の危機切迫

總督各官衙を巡視

臺北市内に於ける日程決定

海鷲樂平西方を爆撃

宮吏制度改正案

三十一日樞府で可決

商相内相と要談

岸商工次官の進退問題で

汪主席に近く謁見

南京着任の本多大使が

小委員九氏を選ぶ

貴族院本會議

二十七日の兩院

皇軍感謝決議

星野企畫院總裁談

新聞紙の協力に對し

有馬事務總長の挨拶

バルカンの戰雲

獨軍大部隊羅國へ進む

白崇禧共産軍を非難

エールの歸趨

對英援助問題

ルー大統領放送

人事

講談社の繪本
お正月のお友達に
新刊二冊が出ました
お子様方に何より樂しいお正月がまゐります。樂しいお正月の樂しいお友達に繪本をお與へ下さい。繪本でお子様の生活を明るく樂しく、正しくしたい念願のもとに、三冊新發賣致しました。
學習繪本 第三學期 ヨイ一年生
東京高等師範學校附屬小學校訓導 田中豊太郎先生
東京女子高等師範學校附屬小學校訓導 福島鶴吉先生
幼稚園保育項目長 和田實先生
修
監
繪本 ヨイ一年生
講談社の繪本
偉人繪本 野口英世
講談社の繪本
漫畫ト愛國（オ）集
講談社の繪本
最近發賣の繪本六冊たつなに
航空畫報
漫畫と感心な子供
親指姫（神話繪ばなし）
海の大畫報
日本の海軍（海國美談）
漫畫と銃後童話集
一冊五十錢（各地書店にあります）
東京 大日本雄辯會講談社 發行

國民皆健!!
榮養 増進 胃腸 調整
ウラピタミンB1
うらら 錠 剤
内来
定價 一〇〇錢 二〇〇錢 二〇〇〇錢
製造發賣元 内来製藥株式會社 本社 東京 支店 大阪 出張所 名古屋 福岡 札幌

ウップ
新マツダ
ランプ

臺灣新報社 東京出張所 東京市麹町區有樂町一ノ一 電話有樂（59）二一〇〇番

社說

支那中央銀行と日蘭印協定

大東亞共榮圈の輪廓擴大す

一

最近大東亞共榮圈內に於て金融通貨並びに爲替關係に於ける二つの重要なる發表が實現した、一は即ち支那中央儲備銀行の創立、一は我が國と蘭印との間に於ける日蘭印間の爲替決濟に關する協定がそれである、此の中央儲備銀行の設立は支那事變の解決を目的として新政權樹立の爲めの中央銀行設立の民國二十年四月の中央銀行設立とは全く其の性格を異にするもので、其の使命とするところも國民政府當局の根本の中樞部に位する中央銀行の役目と殆ど變るに至り、國立國際としての機能よりも寧ろ國內に於ける國家金融の中心的機能としての任務を有するものである、此の中央儲備銀行の設立に當つては資本金を二億元として其の四割以上を我が國側が拂込むことになつてゐる、其の機能としては資本金

（第三種郵便物認可）　昭和十五年十二月二十八日（土曜日）　臺灣日日新報　第一万四千六百五十五號　（三）

東洋平和の尊き人柱

支那事變第卅一回論功行賞

【東京二十八日發同盟】陸海軍は二十八日左の如き支那事變第三十一回論功行賞を發表した

輝く殊勳甲（六十二名）

△陸軍大將 畑俊六 △同 山本英輿 △同 古莊幹郎 △同 松井石根 △同 杉山元 △同 西尾壽造 △同 岡村寧次 △同 阿南惟幾 △同 下村定 △同 安藤利吉 △同 小磯國昭 △同 板垣征四郎 △同 畑俊六 △同 梅津美治郎 △同 東久邇宮稔彦王 △同 朝香宮鳩彦王 △同 久邇宮朝融王 △同 閑院宮載仁親王 △同 竹田宮恒德王 △同 北白川宮永久王 △同 賀陽宮恒憲王 △同 伏見宮博恭王 △同 山田乙三 △同 上月良夫 △同 飯田祥二郎 △同 笠原幸雄 △同 吉本貞一 △同 後宮淳 △同 藤江恵輔 △同 佐藤賢了 △同 秋重五郎 △同 鈴木率道 △同 鈴木貞一 △同 田中新一 △同 河邊正三 △同 河邊虎四郎 △同 中村孝太郎 △同 中村明人 △同 中島今朝吾 △同 中山隆吉 △同 中野英光 △同 中澤三夫 △同 中沢佑 △同 中將湯誠 △同 中根英次 △同 中永太郎 △同 中原義正 △同 中村三郎 △同 中村良三 △同 中村明人 △同 中山定義 △同 中島鉄蔵 △同 中島親孝 △同 中島勝平 △同 中西一策 △同 中村孝太

臺灣日日新報　各地綜合版

七勇士告別式
第三十一部隊で嚴修

今次事變において赫々たる武勳を樹て護國の華と散つた○○部隊所屬○○○